

エコロジーの思想

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、さまざまなタイプのエコロジー思想を概観することを通じて、生産・消費・運輸交通・廃棄などの人間活動が現在どのような問題に直面させられているか、そしてそのことはわれわれの思想や価値観をどのように方向転換することを求めているか、を考えていくことにしたい。そして、そうした「思想の問題」を考えることは、受講生それぞれが自分の問題として考えること、「生き方」を問い直すことである。当然ながら、その解答は多様であり、一つではない。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師自己紹介、エコロジーとは何か
2	成績評価について、問題を自分の問題とすることについて
3	エコロジー思想の起源
4	シャロウ・エコロジーとディープ・エコロジー
5	エコロジー社会は技術によって実現可能か
6	シューマッハーの「適正規模」技術論
7	エコロジーの3法則
8	「便利」で「快適」な生活は、われわれに何をもたらすのか
9	産業化社会の何が問題か
10	エコ・マネーは未来を救うか
11	環境経済学の「外部不経済の内部化」論
12	情報化社会の問題
13	スピード化社会、自動車社会の問題
14	エコロジカルな生き方とは何か
15	受講者の感想・評価とレポート提出
16	

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは、教室の外で行なってもらいます。

【評価方法】

基本的にはレポートによって成績を評価する。途中で課題を出すこともする。課題の評価は、レポート評価に上乗せする。出席点は、成績に考慮しない。

【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店1998年
尾関・亀山・武田『環境思想キーワード』青木書店2005年

【参考文献】

環境の倫理学

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、環境問題を倫理学の問題として考えていくことが中心となります。ここでいう倫理学とは、人間の行為が正しい・善いとされるとき、その行為を正しいもの・善いものとしているのが何であるか、その根拠や理由を原理的な面まで掘り下げて明らかにしていくという理論的作業のことです。今日、環境倫理学はさまざまな角度から論じられていますが、講義ではできるだけ具体的に問題を取り上げながら、受講生と一緒に考えていきたいと思っています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師自己紹介、環境倫理学とは
2	レポートについての諸注意
3	倫理学から環境問題を考えることの意味
4	人間中心主義 v s 自然（非人間）中心主義
5	A. ネスのディープ・エコロジー
6	P. シンガーの動物の権利・解放論
7	レオポルドやキャリコットのホーリズム
8	「自然の権利」論
9	「樹木の当事者適格」論
10	パスモアの「スチュワード」論
11	ブクチンの社会派エコロジー
12	エコフェミニズム
13	世代間倫理
14	人口問題
15	エネルギーと社会的公正
16	まとめとレポート提出

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは認めません。
出席者は積極的に質問・発言してください。

【評価方法】

授業の最終回で提出してもらうレポートで基本的には評価します。レポート作成に当たっては、いくつかの条件があります。授業でよく聞いて、それを守って作成してください。守らないものは、提出しても不可です。授業の途中で課題を出すこともあります。授業で積極的な発言者・質問者は、より評価します。

【テキスト】

別に指定しません。授業で紹介する本を積極的に読んで、レポートしてください。

【参考文献】

芸術学 I

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

美術や芸術がどのように始まり、我々人間社会にどのような影響を与えて来たのかを西洋美術史（作品名、作家名、時代・様式、主義・主張など）を紐解きながら学ぶことができる。また、芸術関係者による特別講義を通して美術館運営や学芸員の役割なども習得することができる。講義の到達目標は次のようになる。

1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することができる
2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することができる

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することができる
2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することができる
3. 特別講義などを通して、美術館や学芸員の役割について説明することができる

- 1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト）
- 2週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品
- 3週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品
- 4週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品
- 5週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 6週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 7週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 8週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック）
- 10週目 世界の美術館紹介
- 11週目 世界の美術館紹介
- 12週目 特別講義（芸術関係者による講義）
- 13週目 北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 14週目 北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 15週目 ふりかえり
- 16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメ、資料を配布する

【参考文献】

1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定

芸術学Ⅱ

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

芸術学Ⅱでは、芸術学Ⅰで習得した知識を踏まえ、西洋や日本、沖縄の芸術文化をさらに思弁的に学び、社会における芸術（美術、音楽、演劇、写真）メディアを幅広く学ぶことができる。講義の到達目標は次のようになる。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 近代史において西洋美術や日本美術の特徴や相互関係を説明することができる
2. 美術史を踏まえ、幅広く芸術メディア（音楽、演劇、写真など）の特徴を説明することができる
3. 芸術関係者の特別講義を通して、博物館や美術館の役割を説明できる

- 1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト）
- 2週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義）
- 3週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義）
- 4週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義）
- 5週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（ロマン主義）
- 6週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（印象主義）
- 7週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（印象主義）
- 8週目 特別講義（博物館/美術館学芸員）
- 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック）
- 10週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義）
- 11週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義）
- 12週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義）
- 13週目 現代芸術（芸術メディア（音楽、演劇、写真など）の動向と潮流）
- 14週目 現代芸術（芸術メディア（音楽、演劇、写真など）の動向と潮流）
- 15週目 ふりかえり
- 16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

芸術学Ⅰを習得したものが望ましい

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメ、資料を配布する

【参考文献】

1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定

コミュニケーション論

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間は社会的な生き物であり、言語および非言語によるコミュニケーションを絶えず行いながら生きている。本講義では、前半において、私たちのコミュニケーションを円滑に機能させている「敬語」について具体的な例を挙げながら考察する。いくつかには琉球における事例も挙げられるであろう。また、後半において、人間のコミュニケーションのあり方は他の動物とどのように異なるのか、人間が文化を持つに至った言葉とはどのような特徴を持つものか、言語と文学表現との関係はどういったものか、といった思想的な問題を論じていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	敬語とは何か
3	丁寧語
4	尊敬語
5	謙譲語 I
6	謙譲語 II
7	美化語
8	中間試験
9	人間のコミュニケーション～他の動物とどのように異なるのか～
10	言語の構造～音声学と音韻論～
11	文化的概念としてのエティックとイーミック
12	言語の構造～文法と意味～
13	意味の多義化～メタファーとメトニミー～
14	認知言語学における比喻の概念
15	ノンバーバル・コミュニケーション
16	期末試験

【履修上の注意事項】

3分の1を超える欠席者は、原則として単位を認めない。
出席確認のための小テストを行う。

【評価方法】

試験・小テスト・出席点・レポートなどで評価する。

【テキスト】

1回目のオリエンテーションにて説明する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

心理学 I

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人が人として生きていく中で、自分や他者の心・行動を理解することは大切なことだと思われます。人が自分や他者の心・行動を理解しようとする時、そこでは誰もが心理学者になっているとも言えるかもしれません。しかしながら、その理解の仕方は多くの場合、個人的な経験則や直感に基づく主観的なもので、科学的・客観的な理解とはかけ離れたものになりがちです。本講義では、人間科学としての心理学の立場から、知覚・学習・記憶・認知・感情等をテーマとして取り上げ、なるべく日常的な話題から人の心や行動について科学的に理解できるようにすることを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	心理学とは？～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～：心理学はアヤシイ、フシギ？
3	人は世界をどのようにとらえるのか？～知覚の心理学(1)～：心霊現象，図と地
4	人は世界をどのようにとらえるのか？～知覚の心理学(2)～：視覚と聴覚
5	人はどのようにして学ぶのか？～学習の心理学(1)～：縄張り行動，条件付け学習
6	人はどのようにして学ぶのか？～学習の心理学(2)～：洞察学習，技能学習，社会的学習
7	人の記憶とはどのようなものか？～記憶の心理学(1)～：覚えること・思い出すこと(記憶の仕組み)
8	人の記憶とはどのようなものか？～記憶の心理学(2)～：記憶を促進・妨害する事柄
9	脳と心はどのような関係にあるのか？～脳と心(1)～：心の働きと脳の構造・機能，脳トレ
10	脳と心はどのような関係にあるのか？～脳と心(2)～：脳損傷や薬物の影響を中心に
11	わかるとは何か？～認知の心理学(1)～：理解すること，ピアジェの認知発達論，メタ認知
12	わかるとは何か？～認知の心理学(2)～：考えること，思考，推論，予知夢現象の心理的メカニズム
13	何が人を動かすのか？～気分と感情の心理学～：認知と感情の関係，表情(情動)の認知
14	何が人を動かすのか？～モチベーションの心理学～：“ほめること”と“やる気”の関係
15	全講義内容の振り返り・まとめ & 学期末課題の案内
16	学期末試験(予定)

【履修上の注意事項】

- ・第1回目講義に欠席した場合，原則的に履修仮登録を取り消します。履修登録や授業内容等に関する重要な説明を行うためです。履修登録を希望する学生は，第1回目講義に出席することが必須条件となります。
- ・沖国ポータル(メールや掲示)を必ず確認して下さい。履修登録者の最終確定など，重要な情報を伝達します。
- ・授業への積極的な参加(個人または全体に向けた質問や発言)を求めます。私語や途中入退室等も厳禁です。
- ・授業の展開計画は，変更する可能性があります。

【評価方法】

- ・成績評価は，出席状況15%，参加態度30%，学期末課題55%の内訳で，これらを総合評価して行います。ただし，いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に，毎回提出を求めるリアクションペーパーの質・量により評価します。
- ・学期末課題については，試験を実施する場合，“参考書や資料等の持ち込みを一切不可”として論述式の試験を行います。レポート課題を課す場合は，授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず，毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

講義の中で，または配付資料を通して毎回，関連文献を紹介していきます。映画やマンガなども紹介します。紹介された文献や資料を，各自の自学自習に役立てていただきたいと思います。

心理学Ⅱ

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人の心や行動について科学的・客観的な視座から学ぶことを通して、自己・他者・社会について多面的な理解ができるようになることを目指します。本講義では、なるべく日常生活と関わりの深い心理学的事象（パーソナリティ、心の成長と発達、人間関係、心のトラブルなど）を取り上げ、それらの事象が、どのような理論や方法によって心理学的に研究され、説明されているのかを概説します。なお、心理学の学問領域としては、パーソナリティ心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学に該当する部分を学ぶことになります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	心理学のイメージと実際～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～
3	人の性格とは何か？～パーソナリティ心理学(1)～：血液型と性格・人格理論(類型論・特性論)
4	人の性格とは何か？～パーソナリティ心理学(2)～：パーソナリティテスト・人格形成・人格障がい
5	人が成長・発達するとは、どういうことか？～乳幼児期の発達心理学～
6	人が成長・発達するとは、どういうことか？～児童期・思春期・青年期の発達心理学～
7	人が成長・発達するとは、どういうことか？～成人期・老年期の発達心理学～
8	自分とは何か？～社会心理学(1)～：自分を知ること、自分を他者に知らせる(見せる)こと
9	人はどのようにして他者を理解し、他者と関わるのか？～社会心理学(2)～：対人認知
10	人は、他者・社会からどのような影響を受けるのか？～社会心理学(3)～：社会的影響・説得
11	心の不調・トラブル～臨床心理学、臨床心理士の資格と仕事とは？～
12	心の不調・トラブル～心の病・障がいとはどのようなものか？～：うつ病・統合失調症
13	心の不調・トラブル～心理療法・カウンセリングとは、いったい何をするのか？～：認知行動療法
14	心理学の知見や考え方は実生活に役立つのか？～心理学の実践と応用～
15	全講義内容のまとめ & 学期末課題の案内
16	学期末試験(予定)

【履修上の注意事項】

- ・第1回目講義を欠席した場合、原則的に履修仮登録を取り消します。履修登録や授業内容等に関する重要な説明を行うためです。履修登録を希望する学生は、第1回目講義に出席することが必須条件となります。
- ・沖国ポータル(メールや掲示)を必ず確認して下さい。履修登録者の最終確定など、重要な情報を伝達します。
- ・授業への積極的な参加(個人または全体に向けた質問や発言)を求めます。私語や途中入退室等も厳禁です。
- ・授業の展開計画は、変更する可能性があります。

【評価方法】

- ・成績評価は、出席状況15%、参加態度30%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に、毎回提出を求めるリアクションペーパーの質・量により評価します。
- ・学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを一切不可」として論述式の試験を行います。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

講義の中で、または配付資料を通して毎回、関連文献を紹介していきます。映画やマンガなども紹介します。紹介された文献や資料を、各自の自学自習に役立てていただきたいと思います。

女性と文化

担当教員 栗国 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

文化を通して女性のあり方を考える。文化的性差である「ジェンダー」はどのように文化の中にあるのか。女性史研究、文化人類学の視点から男の文化・女の文化を考える。

【授業の展開計画】

- 1 週目 ジェンダーとは何か 文化的性差の概念
- 2 週目 女性研究学説史① 女性の文化研究
- 3 週目 女性研究学説史② フェミニズム人類学とそのテーマ、マイノリティー研究から
- 4 週目 沖縄の女性研究
- 5 週目 女性と婚姻 婚姻システム①
- 6 週目 婚姻システム②—問われる現代の産む性・婚姻—
- 7 週目 生む性～母性・子供の発見～
- 8 週目 ケガレ・聖観 管理される身体①
- 9 週目 文化に管理される身体②「神と呼ばれた少女」ネパール・クマリ信仰
- 10 週目 文化に管理される身体③ ケガレなき女性の文化・神女
- 11 週目 文化に管理される身体④ 身体加工（アフリカほか）、人権と文化
- 12 週目 沖縄の女性—婚姻・離婚（戦後沖縄と祖先祭祀と女性問題）
- 13 週目 沖縄文化と女性—近世琉球の女性と近現代の女性の婚姻
- 14 週目 沖縄文化と女性—近代 風俗改良 風土と文化（ハジチ、琉葬から和装、金属・簪）
- 15 週目 沖縄文化と女性—文化表象（博覧会、美術、工芸）
- 16 週目 テスト レポート

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

指定テキスト特になし 講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用する。

【参考文献】

重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

女性と歴史

担当教員 宮城 晴美

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

私たちは中学校・高校で世界史や日本史を学んできましたが、沖縄の歴史について教わる機会は非常に少なかったと思います。ましてや、女性の歴史を学ぶことはほとんどなかったのではないのでしょうか。

この授業は、琉球王国時代から明治の琉球処分を経て今日に至るまでの沖縄近現代史をベースに、時代によって女性たちの“主体性”がどう変化してきたか（変化させられたか）について、私たちの身近に起こる「人権問題」を含め、ジェンダーの視点で考察します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	琉球王国の女性～ノロ制度と御内原（大奥）～
3	公娼制度下の辻遊廓
4	家父長制の確立とジェンダー役割の形成～民法と「良妻賢母」教育の導入
5	家父長制の確立とジェンダー役割の形成～沖縄における「国民化」への道（風俗改良）
6	「内なる日本化」と抗する女たち～第二波風俗改良運動～
7	軍事主義とジェンダー
8	戦争と性～日本軍「慰安婦」制度
9	沖縄戦の基礎的学習—DVD鑑賞
10	「集団自決」と戦場レイプの論理
11	女性の政治参加～世界的な潮流のなかで
12	米兵による犯罪と特飲街の形成
13	土地闘争と女性たち
14	沖縄のフェミニズム運動～起ち上がった女たち
15	「トートーメー（位牌）」継承問題とジェンダー
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

できるだけパワーポイントやビデオなど、適宜ビジュアルな資料を使って授業を進めるが、わかりにくいことがあれば授業の途中で質問しても良いし、あるいは授業終了後に提出する出席カードに、感想、意見などとあわせて書いても良い。カードには積極的に書き込んでほしい。

【評価方法】

出席を重視する。授業終了後の出席カード（授業内容への質問、感想、意見など）を参考にし、レポート、テストによって評価する。

【テキスト】

毎回、レジュメ、資料を配付する。

【参考文献】

那覇市総務部女性室編『なは・女のあしあと 那覇女性史（前近代編・近代編・戦後編）』那覇市、1998年～2001年）／外間米子監修『時代を彩った女たち』ニライ社、1996年／他随時紹介

世界の歴史 I

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は近代ヨーロッパの政治外交史の講義である。しかし、近代のヨーロッパは、アジアやアメリカ大陸といった他地域との関係を通じて発展したので、近代ヨーロッパの政治外交史を、非ヨーロッパ地域との関係をふまえながら説明する。その際、香辛料、毛織物、貴金属等の「モノの移動」が与えた影響を基軸として、講義を展開する。また、歴史学は「暗記物」ではなく「考える学問」なので、ワークシートの作成を通じた「歴史的なものの考え方」の修得も目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？
2	「大航海時代」の背景①：中世の西ヨーロッパ世界の特徴は何か？
3	「大航海時代」の背景②：十字軍は西ヨーロッパ世界にどんな影響を与えたか？
4	「大航海時代」の背景③：「商業の復活」によって、西ヨーロッパ世界はどのように変化したか？
5	「大航海時代」の到来①：イベリア諸国はなぜ、どのように「インド」を目指したか？
6	「大航海時代」の到来②：「大航海時代」の到来は、世界にどんな変化をもたらしたか？
7	スペインとオランダ①：16世紀のスペインとオランダは、どのような関係だったのか？
8	スペインとオランダ②：オランダ独立戦争は、どんな戦争だったか？
9	スペインとオランダ③：オランダ独立戦争は、どのように終わったか？
10	オランダの繁栄①：独立戦争を通じて、オランダはどんな国家となったか？
11	オランダの繁栄②：オランダの繁栄は、どんな対立を生み出したか？
12	イングランドの革命①：17世紀半ばのイングランドは、どんな国家だったのか？
13	イングランドの革命②：名誉革命で、英蘭関係はどのように変化したのか？
14	茶をめぐるヨーロッパの変化①：茶文化は、ヨーロッパでどのように広がったのか？
15	茶をめぐるヨーロッパの変化②：茶文化の流入で、イングランドはどのように変化したか？
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 2年生以上に対しては「歴史学Ⅲ」として開講する。
- ② 本講義を受講するための前提条件はない。
- ③ 前週に配布する参考文献を読んだ上で受講すること。
- ④ 毎回、講義終了後に復習をかねたワークシートに取り組んでもらう。
- ⑤ 出席は毎回必ず取る。

【評価方法】

論述式学期末試験（60%）、ワークシート（25%）及び出席状況（15%）の総合評価とする。
なお、それぞれの評価基準については、初回の講義の時に説明する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

- ①佐藤彰一・池上俊一『西ヨーロッパ世界の形成』（中央公論社、1997年）
- ②樺山紘一『ルネサンスと地中海』（中央公論社、1996年）
- ③森田安一『スイス・ベネルクス史』（山川出版社、1998年）
- ④立石博高『スペイン・ポルトガル史』（山川出版社、2000年）
- ⑤長谷川輝夫他『ヨーロッパ近世の開花』（中央公論社、1997年）など

世界の歴史Ⅱ

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、17～18世紀のヨーロッパ史、とくに近代思想の発展とイギリス、フランスの国内政治史との関係について理解することを目的とする。しかし、ヨーロッパ近代思想を生み出す際に重要な役割を果たしたのがコーヒーやコーヒーハウスであるため、「コーヒーの拡大」をサブテーマとして設定することとする。また、歴史学は「暗記物」ではなく「考える学問」なので、ワークシートの作成を通じて、「歴史的なものの考え方」の育成も目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？
2	コーヒーの誕生：コーヒーの実態と起源伝説との間のギャップとは何か？
3	イスラーム世界におけるコーヒー①：「スーフイズム」とコーヒーには、どんな関係があるか？
4	イスラーム世界におけるコーヒー②：イスラーム世界でコーヒーが普及した理由は何か？
5	イスラーム世界におけるコーヒー③：コーヒーが世界化した理由は何か？
6	17世紀イギリスの思想と政治①：17世紀イギリス社会の思想的特徴は何か？
7	17世紀イギリスの思想と政治②：ホブズの「社会契約」の特徴は何か？
8	17世紀イギリスの思想と政治③：ロックの「社会契約」の特徴は何か？
9	17世紀イギリスの思想と政治④：名余革命後「コーヒーハウス」はどのように変化したか？
10	フランス社会と文化①：フランスの宮廷文化の特徴とは何か？
11	フランス社会と文化②：18世紀の都市化が文化に与えた影響とは何か？
12	フランス社会と文化③：カフェは文化の拡大にどんな影響を与えたか？
13	啓蒙思想とコーヒー①：啓蒙思想とはどんな思潮なのか？
14	啓蒙思想とコーヒー②：啓蒙思想家は、フランス社会をどのように認識していたのか？
15	啓蒙思想とコーヒー③：カフェとフランス革命の関係は何か？
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 2年次以上に対しては「歴史学Ⅳ」として開講する。
- ② 本講義を受講するための前提条件はない。
- ③ 前週に配布する参考文献を読んだ上で受講すること。
- ④ 毎回、講義終了後に、復習をかねたワークシートに取り組んでもらう。
- ⑤ 出席は毎回必ず取る。

【評価方法】

学期末試験（60%）、ワークシート（25%）および出席状況（15%）の総合評価とする。
なお、それぞれの評価基準については、初回の講義の時に説明する。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献】

- ①ユーカーズ『オール・アバウト・コーヒー』（TBSブリタニカ、1995年）
- ②小林章夫『コーヒー・ハウス』（講談社、2000年）
- ④村岡健次・川北稔『イギリス近代史 [改訂版]』（ミネルヴァ書房、2004年）
- ⑤長谷川輝夫他『ヨーロッパ近世の開花』（中央公論社、1997年）他

哲学 I

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

哲学は抽象的で馴染みにくい学問と思われがちですが、できるだけ身近なところに材料を取り、受講者の関心にできるだけ沿って話を進めていくようにしたいと思っています。講義では、われわれの心とは何が、知るとはどうか、認識の正しさは何によって決まるかなどを検討する認識論と、ものがあるとはどういうことか、人間とはいかなる存在か、生きることの意味は何かなどを検討する存在論について、考えていきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション 哲学という学の紹介。
2	レポート作成上の注意
3	哲学とは何か、何を問題としてきたか
4	哲学における認識論と存在論の位置
5	知るとはどういうことか
6	われわれは何を知ることができ、できないか
7	心とは何か
8	科学とは何か
9	考えるとはどういうことか
10	存在するとはどういうことか
11	ものが「ある」とはどういうことか
12	人間存在する（生きている）とは、どういうことだろうか
13	「私」が／で「ある」とは、どういうことだろうか
14	「人間らしくある」とはどういうことか
15	まとめ
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは、教室の外に出てもらいます。
こちらから受講生に質問することもあります。
主体的な参加を望みます。

【評価方法】

最終回にレポート提出を求める。成績は主にレポートで行う。
出席はとらないが、積極的に質問や意見を出してほしい。ただ教室にいたら良いというわけではない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

問題ごとに、必要に応じて教室で指示する。

哲学Ⅱ

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、「人間の行為はある価値意識によって支えられ、生み出されているとすれば、その価値は何に由来するか」という、行為論や価値論の問題を考えてみたいと思います。その際、できるだけ現実に即して具体的に問題を考えることにします。すなわち、現代の産業化社会における人間のあり方、とりわけ労働疎外、大衆社会、消費生活、自然との共生、人間にとって真の価値とは何か、情報化社会におけるコミュニケーションなどを問い直す形で考えたいと思います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要、哲学とは何か
2	成績評価、受講上の注意
3	行為とは何か
4	価値とは何か
5	産業化社会のメカニズム
6	経済的価値の由来
7	産業労働とお金
8	労働疎外
9	物象化とフェティシズム
10	消費社会の便利さと豊かさ
11	自然の価値を考える
12	共生社会とは
13	「持つ様式」と「する様式」
14	ほんとうの生きがいとは何か
15	受講生の感想・評価とレポート提出
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 哲学Ⅰを履修していない人でも受講できます。
- (2) 私語・居眠りは、教室の外に出てもらいます。
- (3) 質問を積極的に行なってください。
- (4) 問題を自分の頭で考えること。
- (5) たくさん本を読むこと。

【評価方法】

レポートの内容で基本的には成績評価します。途中で課題を出すこともあります。課題の評価は、レポートの評価に上乘せします。

【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店、1998年

【参考文献】

フロム『生きるということ』『人間における自由』、マルクス『経済学・哲学草稿』、森岡孝治『働きすぎの時代』岩波新書、河邑厚徳『エンデの遺言』NHK出版、イリイチ『シャドウ・ワーク』岩波現代文庫

日本の歴史 I

担当教員 北島 幸三

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本の伝統・文化及び日本人にスポットを当てながら日本の歴史を見ていく事で、日本という国がどのように成立して、どのような特異性を持っているのかを検証していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	稲作と日本史
3	住居と日本史
4	食文化と日本史
5	漢字と日本史
6	ひらがなと日本史
7	学校と日本史
8	領土と日本史
9	驍と日本史
10	暦と日本史
11	災害と日本史
12	むかし話と日本史
13	仏教と日本史
14	神話と日本史
15	まとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- 「日本の歴史Ⅱ」を受講しなくても受講可

【評価方法】

- 出席 30点 [出席カード (=コメントカード) を毎回提出し、コメントの内容をA3点・B2点・C1点の三段階で評価。最高3点×15回分=最高30点 (31点以上はすべて30点)]
- 学期末テスト点 50点
- (発表等の) 授業点 20点

【テキスト】

- 必要に応じてプリントを配布する。
- テキストとなる文献に関しては適宜紹介する。

【参考文献】

- 参考文献については適宜紹介する。

日本の歴史Ⅱ

担当教員 北島 幸三

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本の伝統・文化及び日本人にスポットを当てながら日本の歴史を見ていく事で、日本という国がどのように成立して、どのような特異性を持っているのかを検証していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	稲作と日本史Ⅱ
3	住居と日本史Ⅱ
4	食文化と日本史Ⅱ
5	漢字文化と日本史Ⅱ
6	ひらがなと日本史Ⅱ
7	学校と日本史Ⅱ
8	領土と日本史Ⅱ
9	驍と日本史Ⅱ
10	暦と日本史Ⅱ
11	災害と日本史Ⅱ
12	むかし話と日本史Ⅱ
13	仏教と日本史Ⅱ
14	神話と日本史Ⅱ
15	まとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- 「日本の歴史Ⅰ」を受講していなくても受講可

【評価方法】

- 出席30点 [出席カード (=コメントカード) を毎回提出し、コメントの内容をA3点・B2点・C1点の三段階で評価。最高3点×15回分=最高30点 (31点以上はすべて30点)]
- 学期末テスト点 50点
- (発表等の) 授業点 20点

【テキスト】

- 必要に応じてプリントを配布する。
- テキストとなる文献に関しては適宜紹介する。

【参考文献】

- 参考文献については適宜紹介する。

人間文化課題研究 I

担当教員 泊15回(前期)・前堂志乃15回(後期)

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

このゼミは、教員2名が前期・後期に分かれて担当します。前期は、自己呈示や印象形成など社会心理学的な知見や考え方を理論的・実践的に学んでいくことを通して、自らの生活や進路に役立つスキルの習得を目指します。そのため、プレゼンテーション、ディベート、ロジカル・シンキング等のトレーニングを積極的に取り入れていきます。後期のゼミでは、主に、感覚・知覚、認知、記憶など、ひとの「こころの働き」について体験的に学んでいきます。ゼミを通して「こころの働き」を意識して考えることができるようになることが目標です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション	17	オリエンテーション
2	ワーク①-1：受講生がお互いを知る	18	ワーク①「感覚・知覚」を実感する
3	ワーク①-2：自分を知るためのエクササイズ	19	ワーク①の振り返り
4	ワーク①の振り返り&自己理解エクササイズ	20	ワーク②「よく見る」とは？
5	ワーク②：自分をどのようにプレゼンする？	21	ワーク②の成果発表・振り返り
6	ワーク②の振り返り&自己の価値観を知る	22	ワーク③錯覚の不思議
7	ワーク③：就職面接場面の心理学的分析	23	ワーク③の振り返り
8	ワーク③：就職面接場面のロールプレイ	24	ワーク④身近な錯覚を探そう(発表)
9	ワーク④-1：チームでロジカル・シンキング	25	ワーク⑤記憶の不思議
10	ワーク④-2：チームでロジカル・シンキング	26	ワーク⑤の振り返り
11	ワーク⑤：グループ・ディスカッション	27	ワーク⑥脳とこころの関係
12	ワーク⑥：グループワーク (SWOT分析)	28	ワーク⑥の振り返り
13	ワーク⑦-1：ディベートしてみよう(1)	29	ワーク⑦映像とこころの働き
14	ワーク⑦-2：ディベートしてみよう(2)	30	ワーク⑦の振り返り
15	ワーク⑦および授業全体の振り返り	31	ワーク⑧心の働きの不思議(全体の振り返り)
16	予備日		

【履修上の注意事項】

- ・ゼミ(演習)科目ですから、受講生は消費者という立場ではなく、話題提供者・知的生産者として能動的に授業に関与することが求められます。
- ・授業への積極的な参加(受講生個人が自主的に発言や質問等を行う)を求めます。
- ・受講者の数や雰囲気など、クラスの状況によって、ワークの内容に変更が生じることもあります。

【評価方法】

- ・成績評価は、授業への出席状況と参加態度(質問、発言の質・量なども含む)、各種のワークへの取り組み方などを、総合して行います。
- ・少人数のゼミですので、出席状況が特に重視されます。

【テキスト】

教科書は特に指定しません。必要に応じて適宜、資料を配布します。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介していきます。

人間文化課題研究 I

担当教員 小柳 正弘

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間のよきありよう (well-being) を理論的・実践的に検討する少人数演習形式の授業。理論的には学術論文の輪読(文献探索・発表・質疑)により「人間の尊厳」「隣人愛」「自己決定」という三つの理念の含意を考察。実践的には「園芸福祉/芸術療法」実習、「特別支援教育/療育」教材教具開発等。

年間を通しての授業への関わりの実質で成績評価(実習への参加、関連の文献探索、レジュメ作成、特定質問、研究発表、まとめのレポートはいずれも単位取得の必要条件)。

オリエンテーションうけ、授業の形式や内容をよく心得ておかなければ単位は取得できない。

【授業の展開計画】

おおむね以下の通り、実習関係は前後期の入れ替えあり。

前期

オリエンテーション

文献探索(「人間の尊厳」について)

文献探索(「隣人愛」について)

文献探索(「自己決定」について)

学術論文の輪読(「人間の尊厳」について) × 3

学術論文の輪読(「隣人愛」について) × 3

「芸術療法」実習(自己と他者の共同性) = 社会人特別講師 × 2

「特別支援教育/療育」教材教具開発(人間の個性と可能性) × 3
= 学外ゼミ・文化活動による教材教具製作も含む

予備日

後期

学術論文の輪読(「自己決定」について) × 3

「園芸福祉」実習(人間と自然の連関) × 5

「特別支援教育/療育」教材教具開発(ケアとは何か) × 3

研究発表(「人間の尊厳」について)

研究発表(「隣人愛」について)

研究発表(「自己決定」について)

予備日

まとめのレポート

【履修上の注意事項】

オリエンテーションをうけ、授業の形式や内容をよく心得ておかなければ、単位は取得できない。

【評価方法】

年間を通しての授業への関わりの実質で成績評価(実習への参加、関連の文献探索、レジュメ作成、特定質問、研究発表、まとめのレポートはいずれも単位取得の必要条件)

【テキスト】

授業のさいに決める。

【参考文献】

授業のさいに適宜紹介

人間文化課題研究 I

担当教員 吉浜 忍

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

沖縄の歴史、とくに沖縄戦を含む沖縄近現代史を中心に学ぶ。学びの方法は、基本的・基礎的な知識を踏まえた上で、自ら課題（テーマ）を設定し、調査研究して発表する。課題は、各人が生まれ育った地域、あるいは生活している地域の歴史に限定する。調査の方法はフィールドワークを通して学ぶ。したがってフィールドワークを重視する。歴史は現場にあることを認識することで、そこから問題意識をもち、課題を見つけ出すことにもつながる。また各人が掘り起こした歴史を発表することで、地域の個性的で多様な歴史を共有する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期ガイダンス	17	後期ガイダンス
2	沖縄近現代史の学習	18	史資料の解読・分析の学習
3	沖縄近現代史の学習	19	フィールドワーク
4	沖縄近現代史の学習	20	史資料の解読・分析の学習
5	フィールドワーク	21	調査研究の視点と方法の学習
6	史資料の解読・分析の学習	22	フィールドワーク
7	地域調査の視点と方法の学習	23	調査研究の準備
8	フィールドワーク	24	調査研究
9	課題設定	25	フィールドワーク
10	地域調査	26	発表①
11	発表①	27	発表②
12	発表②	28	発表③
13	発表③	29	発表④
14	発表④	30	発表⑤
15	発表⑤	31	後期のまとめ
16	前期のまとめ		

【履修上の注意事項】

- (1) 沖縄の歴史、とくに沖縄戦含む沖縄近現代史に興味・関心、問題意識をもっている学生が望ましい。
- (2) 歴史学Ⅰ・歴史学Ⅱ及び沖縄関係科目群を履修した学生が望ましい。
- (3) フィールドワークは講義時間以外に実施することが少なくない。
- (4) ゼミ形式の授業であるので、受講生の積極的・意欲的な取り組みが必要である。

【評価方法】

- | | |
|----------------|-----|
| ①出席状況 | 20点 |
| ②取り組みの姿勢や態度・意欲 | 20点 |
| ③地域調査の内容、発表の仕方 | 30点 |
| ④課題研究レポート | 30点 |

【テキスト】

テキストは適宜準備する。

【参考文献】

参考文献は適宜紹介する。

人間文化課題研究 I

担当教員 浦本 寛史

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミでは、芸術学の主要分野である美術史の領域において、美術史の方法論の展開から現代アートまでを概観する。さらに各々の研究課題を設定し、調査し、解釈学や記号論といった視点から作品の特色・意義を学ぶことができる。

*芸術学とは、美術、映像、音楽、演劇、建築などを指す。

【授業の展開計画】

目標：

1. 各芸術領域の史学、特性を説明することができる。
2. 各々の研究分野を設定し、その調査、分析を行うことができる。
3. 研究成果を発表・評価・改善することができる。

授業の流れ：

- 1回目：自分マップ作成(Who am I ?)
- 2日目：自分マップ作成(Who am I ?)
- 3回目：自分マップ発表(Who am I ?)
- 4回目：研究課題調査・設定
- 5回目：研究課題調査・設定
- 6回目：研究課題調査・設定
- 7回目：研究課題調査・設定
- 8回目：研究課題中間報告
- 9回目：研究課題中間報告
- 10回目：研究課題に関するフィールド調査
- 11回目：研究課題に関するフィールド調査
- 12回目：研究課題に関するフィールド調査報告
- 13回目：研究課題に関するフィールド調査報告
- 14回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成
- 15回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成
- 16回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成・発表

【履修上の注意事項】

履修者は、本学が提供している芸術関連科目を既に受講している者が望ましい。

【評価方法】

1. 研究に対する取り組み、出席状況
2. 研究内容の完成度
3. 授業・態度、発表状況

【テキスト】

美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）を適宜配布

【参考文献】

西洋美術の読み方（パトリック・デ・リンク 創元社）、日本の美術（辻惟雄 東京大学出版会）自己表現メソッドクリストフ・アンドレ 紀伊國屋書店）など、他多数

人間文化課題研究 I

担当教員 武田 一博

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本課題研究は、旧哲学ゼミからの名称変更で、ゼミ形式を通じて哲学の諸問題を考えることが主なねらいです。ゼミ形式ということは、受講生からの積極的な問題提起、相互のディスカッションによって授業が組み立てられ、進行していくということです。日頃考えている問題や悩み、最近読んだ本をもとに他の人の意見を聞いてみたい、新聞や映画で話題になっていることをもとに現代社会とは何か検討してみたい……。こうしたことをみなと一緒にわいわい議論しながら、日常感覚で哲学することの面白さを味わってみてください。

【授業の展開計画】

前期

講師および受講生の自己紹介

前期に取り上げる本ないしテーマを皆と話し合って決める。
各回、担当者は参加者人数分のレジюмеを用意してくること。

適宜、参加者からの提案があれば、図書館4Fで映画の鑑賞会も企画する。

後期

後期は、各参加者の問題意識に沿って、毎回異なるテーマでディスカッション。
担当者は参加者人数分のレジюмеを用意してくること。
最低一人1回以上は、発表を義務づけします

前期同様、参加者からの提案があれば、映画会、博物館見学なども計画する。

【履修上の注意事項】

前期・後期各1回は、最低でも報告してもらいます。報告は、自分の問題意識、読んだ本や雑誌記事、最近見た映画などなんでも自分で「この問題をみんなとディスカッションしてみたい」と思うものなら自由にテーマ設定してかまいません。参加者分の枚数をレジюмеで準備して、報告してください。

【評価方法】

日頃の問題提起・ディスカッションへの参加によって評価します。
課題研究Ⅱの履修者（本年度は該当者なし）には、レポート提出を課します。

【テキスト】

指定しません。皆と輪読する本は、参加者全員で決めていきます。

【参考文献】

フェミニズム思想

担当教員 新木 順子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

文学 I

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「文学 I」では、ドイツの「叙情詩」を中心に抗議します。ゲーテの詩が多くなります。現代の詩まで取り上げる予定です。まずは詩形式について述べ、成立した背景や民俗的、社会的背景などについて述べます。

できるかぎり、学生たちにも知っていると思われる詩歌を取り上げたい。リストやモーツァルト、特にシューベルトの作曲によってドイツリートとして親しまれているものも多い。リートを聴いて、言語は「音」であることを、ドイツ語の韻律の美しさを感じることによって知ってほしい。何よりも「文学」の楽しさが伝わることを願う。

【授業の展開計画】

厳密な「展開計画」はできていない。講義で取り上げる作品を並べることとする。

「五月の歌（祭）」（Maifest）、「野バラ」、「スマレ」、「トゥーレの王様」、「魔王」、「魔法使いの弟子」、「以上、ゲーテ。

「歓喜の歌」、「手袋」、シラー。

「ローレライ」、「てき弾兵」、以上、ハイネ。

「おやすみ」、「菩提樹」、以上、ミュラー『冬の旅』より。

「ぼくは君を愛する」、ヘロッセー。

「誠実な愛」、シェジー。

「ローマの噴水」、リルケ。

「詩のフーガ」、ツェラーン。

そのほか、「聖しこの夜」、「リリー・マルレーン」、「99個の風船」など。

【履修上の注意事項】

文学、音楽、特にクラシック音楽に興味のある学生の履修を望む。私語は厳禁。遅刻も無断欠席もしないこと。出席をとります。

【評価方法】

期末試験をする。出席も加味する。再試や追試を行わない。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

文学Ⅱ

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2013年度後期 閉講

【授業のねらい】

「文学Ⅱ」では、ドイツの戯曲を中心に講義します。
ハインリヒ・ハイネの『ドイツ古典哲学の本質』に依拠して、ドイツ近代文学の始まりといえるマルチン・ルターについて、特に、その聖書翻訳について口述する。その後、レッシング、シラー、ゲーテの文学論と戯曲を取り上げる。できれば、ブレヒトの演劇との対比によって、現代の演劇との相違点も考えたい。
舞台上でどのように演じられているのか、思い描けるような想像力を喚起できるように願っている。

【授業の展開計画】

「授業展開計画」はできていない。講義で取り扱う作品や対象を並べることにする。
ハインリヒ・ハイネ『ドイツ古典哲学の本質』（岩波文庫）より、「宗教改革」と「ルター」。
「啓蒙主義」について。レッシング、『ラオコーン』、『賢者ナータン』。
シラー、『素朴文学と情感文学』、『マリア・スチアルト』。
ゲーテ、『ファウスト』。

【履修上の注意事項】

上記の作品や文学論は、岩波文庫や文学全集などに翻訳があるものもある。『ファウスト』は現在なお、新訳が出ている。できるかぎり、上記の作品を翻訳で読むようにしてください。また、ノートを用意して、内容を筆記すること。私語は厳禁。遅刻も無断欠席もしないこと。出席をとります。

【評価方法】

期末試験を行う予定にしている。5回以上無断欠席をしたものは受験資格はない。追試や再試も行わない。

【テキスト】

必要に応じて、プリントを配布します。

【参考文献】

平和と文化

担当教員 吉川 由紀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

平和、戦争、沖縄、人権などをテーマに、多くの人々の人生に触れながら、他者の語りに耳を傾け理解する力を養う。

【授業の展開計画】

- 1 隣で生きている人の「歴史」に耳を傾ける
- 2 沖縄戦体験者の声を聴く、記録する
- 3 慰霊塔（慰霊碑）の声を聴く
- 4 死者の声を聴く① 戦争遺跡を通して
- 5 死者の声を聴く② 遺骨収集の現場から
- 6 対馬丸事件に学ぶ① 事件を忘れないために
- 7 対馬丸事件に学ぶ② 海の戦争の実態
- 8 対馬丸事件に学ぶ③ 体験者の証言を聴く
- 9 ハンセン病問題の歴史を糧に① 終生絶対隔離とは何か
- 10 ハンセン病問題の歴史を糧に② 沖縄のハンセン病差別被害
- 11 ハンセン病問題の歴史を糧に③ 差別と向き合って生きる
- 12 ハンセン病問題の歴史を糧に④ 回復者の証言を聴く
- 13 証言を取り巻くいま
- 14 加害と被害を抱えて生きる 満州移民の歴史をどう受けつぐか
- 15 実践から見えてくるもの
- 16 まとめ

*現場で活動している人の報告や体験者の証言を聴く機会をもつ。
証言者の日程の都合などで、授業内容の順序が多少変わることもある。

【履修上の注意事項】

県内外・国内外を問わず戦争・平和・人権問題を扱った資料館・博物館を積極的に見学し、書物（証言集なども含む）に目を通すこと。

【評価方法】

出席状況とレポートを総合して行う。レポートテーマは第1回目の講義で発表するので注意すること。

【テキスト】

特に指定はしない。毎回レジュメを配布する。DVDやパワーポイントを用いて授業をすすめる。

【参考文献】

『オキナワを平和学する』石原昌家・仲地博編、法律文化社、2005年
『新版ライフヒストリーを学ぶ人のために』谷富夫編、世界思想社、2008年
その他は、講義の中でその都度紹介する。

倫理学 I

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して常識や自説をのりこえ問題を多面的かつ根底的に検討することをめざすものなので、この授業も科目担当教員が通説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。内容としては鷺田清一の自我論を素材に「自己」と他者とのかかわりを中心に現代社会における人間のありかたを多面的に検討する。★第1回のオリエンテーションに出席しなければweb登録していても履修者名簿から削除する。公欠で出席できない場合はあらかじめメール (mkoyanagi@okiu.ac.jp) で相談すること。★

【授業の展開計画】

授業の段取り

(1) テキストの概要を分担して発表する(個人発表=全員)

担当者は、レジュメ200字を定められた締切までにメールで、特定質問担当者・SA・科目担当教員に提出し、授業で読みあげ、質疑に応じる。

(2) 個人発表に対する特定質問者を務める(特定質問=全員)

担当者は、発表者のレジュメとテキストを照合・検討して、発表者のレジュメの曖昧なところ間違っていると思われるところを指摘する。

質問終了後、発表者とのやりとりも含めて、特定質問のまとめを定められた締切までにメールで、SAと科目担当教員に提出する。

(3) 個人発表・特定質問の後、全体で議論

a. 発言者は授業後、発言内容をメールでSAと科目担当教員に提出する。

b. 質疑応答などは挙手がなければ適宜指名

(4) 必要に応じて小レポート

*座席は指定。

*展開によってはグループディスカッションも採用。

1-2. オリエンテーション(欠席者は履修者名簿から削除)

2-3. 哲学とは何か

4-7. 爆弾のような問い

8-11. じぶんの内とじぶんの外

12-14. じぶんに揺さぶりをかける

15. まとめのレポート

【履修上の注意事項】

*個人発表・特定質問の日程等、授業に関する告知は、大学のポータルシステムの授業連絡で学生番号のメール宛に行うので、必要に応じて携帯電話への転送設定等を行うこと。*授業の具体的なやり方や評価方法を説明するオリエンテーションに必ず出席すること(欠席者はweb登録していても履修者名簿から削除する)。公欠で出席できない場合はあらかじめメール (mkoyanagi@okiu.ac.jp) で相談すること。

【評価方法】

下記の配点内でそれぞれを評価する。

①教科書担当部分の概要の発表・レジュメ、計30点 ②特定質問・まとめ、計30点 ③発言の記録、計20点
④その他(小レポート、グループディスカッションなど)計20点

*配分を変えるさいは授業中に告知する。

【テキスト】

鷺田清一『じぶんーこの不思議な存在』講談社現代新書

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

倫理学Ⅱ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して常識や自説をのりこえ問題を多面的かつ根底的に検討することをめざすものなので、この授業も科目担当教員が通説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。内容としては「自己」と他者とのかかわりを中心に現代社会における人間のありかたを多面的に検討する。この授業は倫理学1（前期）の続き。★前期の倫理学Ⅰを履修していなければ登録できない。★

【授業の展開計画】

授業の段取りは、前期、倫理学1と同様。ただし、少人数の場合は、全員が概要とコメントを発表（レジュメは不要）。

教科書は、前期、倫理学Ⅰの続き

1-4. 他者の他者であるということ、私の思考探究

5-7. 〈顔〉を差し出すということ

8-10. 死にもものとしての〈わたし〉

【履修上の注意事項】

倫理学Ⅰを履修していることが登録の必要条件（倫理学Ⅰを履修していなければ登録できない）。登録の必要条件を満たしていない場合はweb登録していても履修者名簿から削除する。

【評価方法】

下記の配点内でそれぞれを評価する。

- ①教科書担当部分の概要の発表・レジュメ、計30点 ②特定質問・まとめ、計30点 ③発言の記録、計20点
④その他（小レポート、グループディスカッションなど）計20点

*配分を変えるさいは授業中に告知する。

【テキスト】

鷲田清一『じぶんーこの不思議な存在』講談社現代新書（前期、倫理学1と同じ）

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。